



①

# 「反共」軸に結びつき

安倍元首相銃撃事件を機に、自民党の有力政治家と教団との関わりが批判の的が向けられるようになった。関係の始まりは半世紀以上前の1960年代の南平台町までさかのぼる。両者を結びつけたのは、米ソ冷戦期の反共産主義だった。

教団系出版社の書籍「日本統一運動史」によると、教団は54年、韓国で創設され、58



東京都渋谷区南平台町の自宅でくつろぐ岸信介前相(左)と、合同結婚式で参加者を祝福する文鮮明氏夫妻のカラージュ(写真はロイターなど)

## 岸信介氏と接近、懇意に

岸元首相が教団と関係をもち始めたきっかけは、右翼の大立者として知られ、反共運動に関わっていた故笹川良一氏との親交だった。「運動史」によると、笹川氏は岸氏に対し「(信者らは)将来、日本のこの混乱の中に、それを救うべき大きな使命を持っている」と話したという。

67年6月、教団創設者文鮮明氏が来日し、山梨県の本栖湖で笹川氏らと反共組織の設立を話し合った。そして翌年、国際勝共連合が発足し、過熱する学生運動に対抗した。勝共連合を率いた日本統一教会初代会長の故久保木修己氏の著書によると、発起人に名を連ねたのが笹川氏と岸氏だった。

当時、学生信者が親を「サタン(悪魔)」と呼んだり家出したりすることが社会問題化しており、67年には「親泣かせの原理解運動」などと報道されている。しかし岸氏は教団との関係を深めていく。70年には信者らの前で講演。73年には文氏と会談を果たした。「岸先生は、しばしば統一教会の本部や勝共連合の本部に足を運んでくれたまじした」「岸先生に懇意にしていたことが、勝共運動を飛躍させる大きなきっかけになった」と、久保木氏は著書で振り返っている。

年、国際勝共連合が発足し、過熱する学生運動に対抗した。勝共連合を率いた日本統一教会初代会長の故久保木修己氏の著書によると、発起人に名を連ねたのが笹川氏と岸氏だった。

当時、学生信者が親を「サタン(悪魔)」と呼んだり家出したりすることが社会問題化しており、67年には「親泣かせの原理解運動」などと報道されている。しかし岸氏は教団との関係を深めていく。70年には信者らの前で講演。73年には文氏と会談を果たした。「岸先生は、しばしば統一教会の本部や勝共連合の本部に足を運んでくれたまじした」「岸先生に懇意にしていたことが、勝共運動を飛躍させる大きなきっかけになった」と、久保木氏は著書で振り返っている。

教団が岸氏と親交を結んで約60年後の2022年7月、岸氏の孫である安倍晋三元首相が、奈良市で演説中に銃撃された。殺人罪などで起訴されたのは、母親が信者で、家庭の崩壊に苦しんだという山上徹也被告(26)。取り調べに「(韓国から教団を)招き入れたのが岸氏。だから安倍氏を殺した」と供述した。事件から1年、教団が政界へ浸透していった軌跡を追った。

【1面に関連記事】